

平成21・22年度 熊本県教育委員会指定・熊本県学校給食会委嘱

## 学校給食・食育推進校 研究紀要

研究主題

「食」を通して、自己の生き方をみつめなおし、  
よりよく生きていこうとする子どもの育成



「食」に関する指導



給食の時間



地域の教育力

平成22年11月12日(金)

熊本県合志市立西合志中央小学校

## はじめに

近年、朝食欠食や偏った食事等による食生活の乱れ、肥満傾向の増大や生活習慣病の増加等に代表される健康問題が顕著になり、望ましい食習慣の形成は今や国民的な課題となっています。

そのような中、平成17年7月に施行された「食育基本法」の前文には、特に子どもたちの食育について「…子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるもの」と規定されました。

さらに今回、「学習指導要領総則」に初めて「食育」が明記され、学校給食を教材として活用しながら、学校教育活動全体を通じて総合的に食育を推進することが求められています。

そこで、本校では平成21年度から22年度の2年間、「学校給食・食育推進校」として、熊本県教育委員会の指定並びに熊本県学校給食会の委嘱を受け、研究実践に取り組んでまいりました。

具体的には、研究主題「『食』を通して、自己の生き方をみつめなおし、よりよく生きていこうとする子どもの育成」を掲げ、「学校給食を生かした授業づくり」「給食の時間を要とした取組」「地域の教育力の活用と家庭との連携」の三つの視点から様々な取組を行ってきました。

研究実践については、日々試行錯誤の連続であり、ようやく緒についたばかりですが、本日ご参会の皆様から忌憚のないご意見を賜り、新たな課題を見だし、今後の研究の深化に努めていきたいと考えております。

最後になりましたが、研究推進に当たりましては、熊本県教育委員会、熊本県学校給食会、熊本県立教育センター、菊池教育事務所、合志市教育委員会、関係各機関や各学校並びに先生方、PTAや地域の方等に、懇切丁寧なご助言・ご支援をいただきました。この場を借りまして、厚くお礼を申し上げます。

今後とも、本校教育の充実・発展のため、皆様方のご指導・ご助言をよろしくお願い申し上げます。

平成22年11月12日

合志市立西合志中央小学校 校長 岩根 浩

# 目 次

## はじめに

研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1 教育の今日的課題から	
2 本校の教育目標の具現化から	
3 子どもを取り巻く状況から	
研究主題について・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1 「『食』を通して」とは	
2 「自己の生き方をみつめなおし」とは	
3 「よりよく生きていこうとする子ども」とは	
研究の基本構想・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1 研究の仮説	
2 研究の内容	
3 研究の組織	
4 研究の全体構想	
研究の実際	
1 学校給食を生かした授業づくりの工夫・・・・・・・・	5
(1) 「食」に関する年間指導計画の作成及び活用	
(2) 「学級活動」における学習過程の工夫	
(3) 人材活用の工夫	
(4) 評価の工夫 <実践カードの活用>	
(5) 体験活動と関連づけた取組の工夫	
(6) 「食」に視点を当てた保健指導	
(7) 健康な生活に向けての一斉指導	
2 給食の時間を要とした取組の工夫・・・・・・・・	1 2
(1) 給食指導の充実	
(2) 環境づくりの工夫	
(3) 委員会活動を生かした取組の工夫	
3 地域の教育力の活用と家庭との連携・・・・・・・・	1 5
(1) 地域の人材の活用	
(2) 学校が主体となった取組	
(3) P T Aが主体となった活動	
研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	1 8
1 仮説(1)について	
2 仮説(2)について	
3 仮説(3)について	

## おわりに

## 参考文献

## 研究同人

## 研究主題

# 「食」を通して、自己の生き方をみつめなおし、 よりよく生きていこうとする子どもの育成

### 主題設定の理由

#### 1 教育の今日的課題から

近年、食生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、脂質の過剰摂取や野菜の摂取不足等による栄養の偏り、朝食欠食に代表される不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加等、「食」に起因する問題が生じている。さらには、「食」の海外依存、「食」の安全性の問題も大きな社会問題となっている。また、日々の生活の中で、食べ物への感謝の念や理解、「食」に対する意識は希薄になってきている。

「食育基本法」が施行され、新しい学習指導要領の総則に初めて「食育」が明記され、望ましい食習慣の形成が求められている。学校教育の中で、子どもたちが「食」に関する体験を重ね、「食」に関する知識を身に付け、「食」を選択する力を習得し、生活に生かしていく力をつけていく、そのような食育の推進が求められている。さらに、子どもたちを通じて、家庭に「食」に関する情報を提供し助言や働きかけを行うことを含め、学校・家庭・地域が連携し、食育をより一層推進していくことが重要である。

#### 2 本校の教育目標の具現化から

本校では、学校教育目標に「夢をもち、自ら求め学ぶ、心豊かな子どもの育成」を掲げ、「命を大切に子ども（健康）」「よく考え、進んで学ぶ子ども（工夫）」「認め合い励まし合い、高め合う子ども（協同）」の育成を目指している。

「食」を通して、子どもたちは、「食」と『健康』の関係について正しい理解と望ましい態度の育成を身につけていく。さらに、『健康』を保持増進していくために、生活のあり方を『工夫』し、その過程において、互いの生き方に学び合い、よりよく生きていこうとする『協同』の心が育まれていくであろう。

このことは、本校の教育目標の具現化を図る上からも重要である。

#### 3 子どもを取り巻く状況から

本校の子どもの朝食摂取率は、86%（平成20年度の調査）であった。

平成20年度の一学期当初は、給食の残食量は多かったが、一年間で少しずつ減ってきた。しかし、和食（煮魚、すまし汁、味噌汁等）の献立の時の残食量は、通常に比べて多くなりがちである。「見た目や味、色、食

感が苦手な野菜や肉、魚介類等が食べられない」「好きな物しか食卓に並ばない」「好きな物しか口にしない」等、家庭における食経験の乏しさが、給食の残食につながっていると考えられる。

子どもが「食事が楽しい」と感じる時は、「好きなものを食べる時」「野外で食べる時」「家族そろって食べる時」と答えている。「家族そろって食べる時」のアンケートにおいては、朝食では 18.3%、夕食では 4.4%の子どもが、「家族と食べたいけれど一人で食べることが多い」「一人で食べる」と答えている。

保護者の 95.3%は、「体力づくりや健康な体づくり、脳の発達のためにも今の子どもたちに食育は必要である」と考えている。しかし、遠足等の弁当の中身や休日の子どもの昼食を調べてみると、レトルト食品や冷凍食品、インスタント食品、コンビニ弁当、ファーストフード等手軽で簡単に食べられる食品が多く、子どもの栄養の偏りやカロリーの過剰摂取等も見られる。

このように、子どもを取り巻く「食」の環境は、決して恵まれているとは言えない。

そこで「食」を通して、一人一人が「食」についての正しい知識を身に付け、健康で心豊かに生きていくための実践力を培う取組を学校教育全体で進め、次の時代を担う人材を育てていくことが必要である。そのためには、学校と家庭及び地域が「食」を通してつながり合う取組が不可欠である。

## 研究主題について

### 1 「『食』を通して」とは

「食」に関する目標に沿って、「食」に関する知識や実践力等を発達段階に応じて総合的に身につけることができるように、「食」を中心に各教科・領域等との関連を図る等、教育活動を「つなぐ」ことである。

### 2 「自己の生き方をみつめなおし」とは

これまでの自分の食生活や生活習慣をふり返り、自分の課題に気づくことである。さらに、自分の課題解決に向けて学んだ知識を生かし、「どうすればいいか」と解決方法を考えようとする事である。

### 3 「よりよく生きていこうとする子ども」とは

郷土を愛し、感謝や尊敬の心を磨き、「よりよく生きていきたい」という向上心を持ち、進んで生活を改善しながら、豊かな生き方をめざして行動していこうとする子どもの姿である。

## 研究の基本構想

### 1 研究の仮説

研究を進めるにあたり研究の仮説として、以下の3点を設定した。

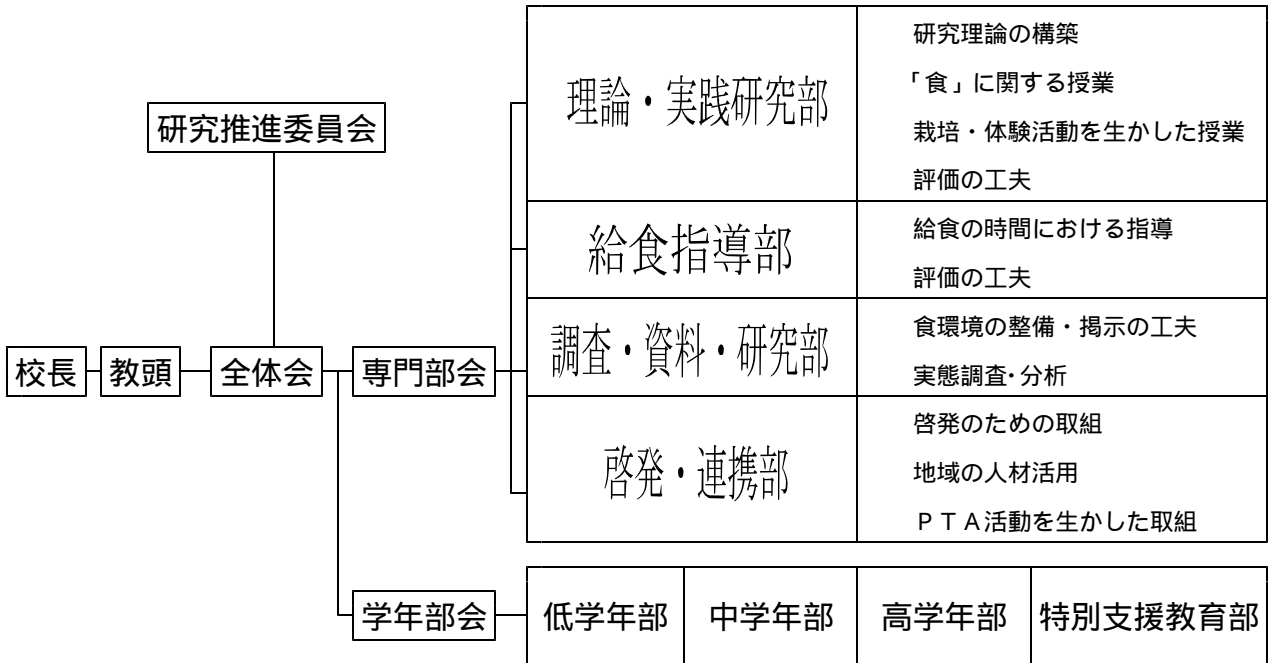
- (1) 自分をみつめ、共に学び合う指導を工夫すれば、  
「知識を学び、学んだことを生かす子ども」が育つだろう。
- (2) 日々の給食指導の充実を図り、自分をふり返る場を設定すれば、  
「向上心を持ち、生活の改善をめざし実践する子ども」が育つだろう。
- (3) 地域の教育力を生かし、家庭と連携した食育の推進を図れば、  
「感謝の心を磨き、郷土を愛する子ども」が育つだろう。

### 2 研究の内容

前述した研究の仮説に沿って、以下の内容について研究を進めた。

- (1) 学校給食を生かした授業づくりの工夫
  - ア 「食」に関する年間指導計画の作成及び活用
  - イ 学級活動における学習過程の工夫
  - ウ 人材活用の工夫
  - エ 評価の工夫
  - オ 体験活動と関連づけた取組の工夫
  - カ 「食」に視点を当てた保健指導
  - キ 健康と「食」と関連づけた取組の工夫
- (2) 給食の時間を要とした取組の工夫
  - ア 給食指導の充実
  - イ 環境づくりの工夫
  - ウ 委員会活動を生かした取組の工夫
- (3) 地域の教育力の活用と家庭との連携
  - ア 地域の人材の活用
  - イ 学校が主体となった取組
  - ウ P T A が主体となった活動

### 3 研究の組織



### 4 研究の全体構想

